

<H7-5-A : 問題>

次の文は空中写真について述べたものである。間違っているものはどれか。

1. 空中写真は、中心投影でなく、正射投影によって得られる像である。
2. 実体視によって判読した水平な耕地は、必ずしも水田であるとは限らない。
3. 高塔や高層建物は写真の鉛直点を中心として、放射状に写る。
4. 空中写真の主点は周囲の指標から求めることができる。
5. 写真に写っている計器から、撮影時の飛行高度やカメラの傾きの概略を知ることができる。

<H7-5-B : 問題>

海拔撮影高度 3,000m から撮影した鉛直空中写真上で、標高 500m にある平坦な公園の面積を測定したところ、 16 cm^2 であった。また、別の鉛直空中写真上では、同じ公園の面積が 25 cm^2 であった。この海拔撮影高度はいくらか。次の中から選べ。ただし、両写真の航空カメラの画面距離はともに等しいものとする。

1. 2,900m
2. 2,500m
3. 2,400m
4. 2,100m
5. 2,000m

<H7-5-C : 問題>

図5-1は、図解の投射器と標定要素を図示したものである。この標定要素を一つ動かしたところ、写真の投影像の動きが、図5-2のようになった。どの標定要素を動かしたか。次の中から選べ。ただし、投射器は水平な状態から動かしたものとする。

1. κ
2. ϕ
3. ω
4. b_x
5. b_y

図5-1

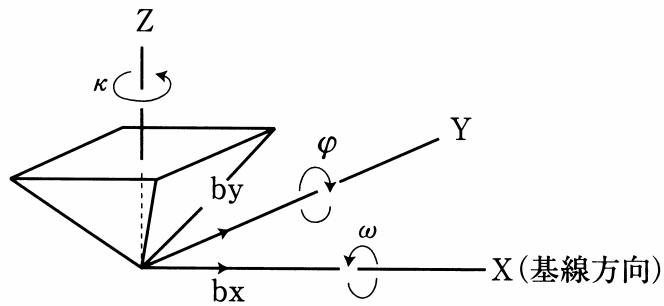
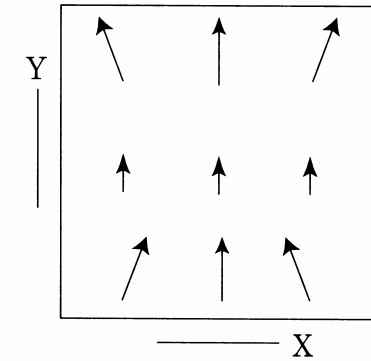


図5-2



<H7-5-D：問題>

次の文は、数値図化について述べたものである。**間違っているものはどれか。**

1. アナログ図化機にエンコーダ（座標読取装置）を接続して、図化データを取得することができる。
2. 解析図化機を用いれば、作業者が操作しなくても、建物の図化データを自動的に取得することができる。
3. 図化データには、地形・地物を区分するための分類コードをつける。
4. 取得した図化データは、ディスプレイ等で確認しながら、作業を進めることができる。
5. 取得した図化データは、磁気テープや磁気ディスクに保存することができる。